

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K17826

研究課題名（和文）住民主体の災害復興過程における実践的研究

研究課題名（英文）A Practical Study of the Empowerment in Disaster Recovery Process

研究代表者

LEE FUHSING (LEE, FUHSING)

京都大学・防災研究所・研究員

研究者番号：10769938

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、住民主体の復興を実現するための方途を、理論的かつ実践的研究を行い検討した。行政依存のパターナリズム構造の悪循環を解消するには、当事者である地域住民だけで防災・復興の取り組みを行うことではなく、行政、専門家、研究者といった外部支援者と地域住民と「ともに」行う対話や実践が必要であることを明らかにした。また、当事者自身による防災教育のツール「クロスロード」の作成や実施、および被災地と未災地交流勉強会の開催などの手法を通じて、地域住民が受動的な存在ではなく、主体的に外部者とつながり、新たな対話や行動が生まれることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、外部者主導ではなく、住民が主体性を見出すことが求められるという観点から、研究者がアクションリサーチにより企画の取り組みの過程の中で、地域住民自身の変容に注目したことにある。つまり、地域住民が行政、専門家に頼らずに、主体的に地域の問題を考え、対処法を生み出した。こうした対処法は、地域の具体的な災害対策、防災教育の課題解決につながる。また、従来の災害に、新型コロナウイルスのような感染症等も加えて複合的な災害ととらえ、日本だけでなく台湾の事例も併せて研究し、地域社会の対応の在り方を複眼的に示した点に社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research explored the theoretically and practically ways of realization of empowerment in disaster recovery areas. We found that for resolving a negative cycle of “forced” support from outsiders and loss of empowerment among residents problem, it is necessary that not only residents, but also outsiders including governments, exporter, researchers, face the disaster reduction and recovery work together by dialog and practice. The residents who produced and played their “Crossroad” game, and conducted the across area workshop. We found that residents were not negative, they connected the outsiders and started the new dialog and action.

研究分野：復興社会学

キーワード：住民主体の実現 クロスロード 震災復興 新型コロナウイルス防疫対策 台湾 茨城県大洗町 地域社会 被災地未災地

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2011年東日本大震災が発生し、広範な地域が地震、津波そして原発事故による放射能汚染の実被害と風評被害の影響を受けた。これを機に、災害復興と地域振興への関心が一気に高まった。問題は、住民主体の復興の実現は困難な点である。たとえば、室崎(2011)は、復興議論の当事者である被災者ではなく、国、専門家が議論の中心となってしまうことを論じた。災害報道も、俯瞰的な視点から被災地の無力なイメージを強調した報道をすることがよくある。このようにして、住民は復興の意思決定、情報発信の役割から疎外され、「考えてもしょうがない」、「頑張っても無駄だ」といった諦め感が生じ、当初あった地域の復興に対する主体性が失われていく。

当事者と外部者のパターンリズムの構造を解消するため、精神医療分野では、当事者自身が自分の病状を研究する「当事者研究」の手法が用いられている。これまで、患者が、幻聴が強いと訴えれば、医師は通例、より多くの薬を処方し、患者は薬が効いてぐったりしてしまう。結果として、こうした方法は長期入院をもたらす要因となってきた。過剰な保護や管理、投薬は、当事者自身のニーズのためではなく、周囲のリスクを軽減するために行われているのである。北海道の浦河町にある、精神障害回復者の活動拠点であるべてるの家の「当事者研究」では、当事者が、自らの症状、服薬をめぐる苦勞、生きがいにかかわる困難に対して、医師(第三者)に頼るのではなく、家族や支援者と連携しながら「研究」し、対処法を見出し、現実の生活の中に生かしていこうとする(向谷地,2009:36)。本研究は、精神医療分野の問題点を打開する「当事者研究」の手法を踏まえ、住民主体の復興を実現するためには、住民自身の参画が必要だと考え、その方途を理論的かつ実践的に検討していく。

2. 研究の目的

以上の研究背景を踏まえ、本研究は、住民主体の復興を実現するための方途を理論的かつ実践的に検討することを目的とする。具体的には、べてるの家の「当事者研究」の手法を踏まえ、地域住民自らがカードゲーム形式の防災教材「クロスロード」を作成し、被災地と未災地の地域間交流勉強会の実施に参画するプロセスを通して考察する。本研究を通じて、災害復興における住民の不安と矛盾を体系化し、その対処法を見出し、そしてパターンリズム構造の打開方法を解明する。

3. 研究の方法

本研究は、住民主体の復興の取り組みの実現に向けて、「当事者研究」の取り組みを参照しながら、災害復興過程において住民にどのような不安、矛盾が生じたのか、どのように対処していくのか、また、「クロスロード」活動を通じて、どのように体現したのかを調査する。インタビューと「クロスロード」活動を実施するのは、東日本大震災被災地茨城県大洗町と高知県黒潮町、台湾である。各地区のインタビュー対象は学校関係者、消防団員、地域組織の成員などである。申請者と研究協力者が防災ワークショップを開催し、地域の問題を議論し、解決方法や対処法を考えることを指す。これらの活動内容をエスノグラフィーとして記述し、目的に沿って考察する。

4. 研究成果

(1)「クロスロード：大洗編」の作成について

まず、東日本大震災の被災地である茨城県大洗町において、「クロスロード：大洗編」(以下大洗編)という名称の防災学習ツールを被災地住民が自ら制作することを研究代表者が支援することを中心としたアクションリサーチを実施した。

たとえば、大洗町の漁師は「あなたは漁師。現地の漁業は原発事故により風評被害を受けている。Facebookで情報発信して安全性をアピールしようと思うが、かえって風評被害を大きくしてしまう恐れもありそう。あなたはどうする? YES 情報発信する NO 情報発信しない」という設問を作成した。また、現地の宿泊業者が「あなたは宿泊業者。地元は原発事故による風評被害の影響を受けている。あるマスコミの記事が地元の風評被害について書いた。その記事は間違った情報ばかりだと思い、ブログで訂正した。しかしブログの読者がコメント欄であなたとは反対の意見を書き込んだ。あなたは議論を加える? YES 議論する NO 議論しない」を作成した。

以上の設問を現地で防災ワークショップを実施し、その成果についてインタビュー調査を実施した。当事者研究の理論を踏まえて、以下のように考察した。第1に、「クロスロード」の制作に関する一連のプロセスは、被災地住民が自らが直面する課題を自身の言葉で表現したことを意味している。当事者研究に言う「<問題>と人との、切り離し作業」に相当する。この作業を通じて、一方に、<問題>について主体的に考える被災地住民が生まれ、他方に、当事者とは切り離された客体的な対象としての<問題>が可視化されている。第2に、「クロスロード」として表現された<問題>は、多くの人々が共有しうる、より公共的な<問題>として再定位される。

また、大洗町以外のコミュニティで「クロスロード：大洗編」のような当事者自身が防災教材を作成することによる効果をはかるために、研究代表者の出身地である台湾の台北市・高雄市・台南市の市民向けコミュニティ防災研修で「大洗編」を実施した。台湾では、大洗町とは異なる

成果を得ている。台湾の参加者は、「クロスロード」の作成を通じて、各地域の問題を可視化・共有化するだけでなく、行政やマスメディアなどの外部支援者にアピールする目的が目立っている。それは、台湾の地域防災・復興のステイクホルダーと日本の地域防災・復興のステイクホルダーの形成が異なることが明らかにした。

その後、本研究は台湾政府行政院水土保持局の「土石流防災専員」プログラム（土石流防災の地域リーダー育成）と連携し、「クロスロード：台湾土石流編」を作成した。たとえば、「あなたは防災専員。どしゃ降りの中、あなたは避難誘導を続けるか？YES 続ける NO 先に避難する」などの設問を作成した。現地でも2年連続以上に活用されている。以上のように、本研究は国際交流やインターローカルに貢献している。

(2)「被災地大洗町と未災地黒潮町」の交流勉強会後の成果

研究代表者は2018年5月26日・27日に研究フィールドである茨城県大洗町で第1回の交流勉強会を開催し、2019年1月27日・28日に黒潮町で第2回の交流勉強会を開催した。その結果、両地および研究者との交流によって、住民主体の震災復興および事前復興の課題に向けた解決策が得られた。両地が互いに影響しあうことで、黒潮町は、大洗町の経験を活かし、防災教育教材「クロスロード：黒潮編」を作成でき、大洗町は、サンビーチで津波避難実測訓練を実施した。そして、第2回の交流勉強会に参加・発表した大洗町の住民は、黒潮町で実施されている「砂浜美術館」の「Tシャツアート展」のコンセプトにひかれ、2019年6月16日～22日に大洗町で「風にころがるTシャツ展」を開催した。また、主催者はTシャツ展を10年間継続的に開催していくことを目指している。本イベントの開催の意味は、住民が積極的に地域振興、外部支援者とつながることである。以上、本研究が実施した交流勉強会は、住民主体の実現の方策を提供し、被災地の復興に多様な発展を与えたと言える。

(3)被災地における新型コロナウイルス対策と取り組み

復興とは、破壊による損失を回復し、破壊から立ち上がることである。また、復興では、地域の根本的な問題を改革すること（世直し）と、災害によって失ったことを取り戻す（立て直し）ことという2つの方向性がある（室崎，2020）。東日本大震災から10年を経て、復興事業は一定の成果をあげ、地域振興のステップに移行する地域が増えつつある。例えば、イベントや祭りの開催などで国内外から観光客を誘致することで「関係／交流人口」の増加を図り、観光産業を振興して、さらなる経済活性化を目指す地域が見られる。しかし、そうした地域が新型コロナウイルスの拡大により、新たな課題に直面している。一部の被災地では、コロナ禍により集客による地域振興が見込めなくなり、方針転換の見直しが急遽迫られているのである。

本研究は、大洗町を事例に、本研究は地域の取り組みとその発展を3つの時間軸、東日本大震災の震災前、震災後、そしてコロナ禍以降で整理した。震災とコロナ禍は、従来の産業を中断させた。住民が地域社会の受動的な存在ではなく、主体的に復興の体験や外部者とのつながり、新たな取り組みを展開した。これらの新しい取り組みは、以前の課題を解決する可能性があると思われる。

一方、台湾は防疫の成功事例（たとえば「防疫の優等生」、「各国の学びの対象」、「ITをうまく利用した」）として、政府のリーダーシップが評価された。台湾の地域社会は、2003年のSARSの経験を踏まえてコミュニティ単位で防疫作業を行っており、本研究は台湾の1999年の集集大地震の被災経験がある地域社会がどのようにコミュニティの防疫を行っているのかを検討した。その結果、地域全体で防疫作業を支援するネットワークを構築し、感染リスクが高い者に対する支援を可能にすることで、政府や医療機関の負担を減らし、地域全体の衛生観念も向上していた。また、地域の特性によって、防疫教育の実施や自主防災組織で消毒作業を行う等、主体的な取り組みが進められていることがわかった。

[参考文献]

- [1]向谷地生良 2009 統合失調症を持つ人への援助論 人とのつながりを取り戻すために 金剛出版
- [2]室崎益輝 2011 被災者主体の復興への道筋 学芸出版社編集部編 東日本大震災・原発事故復興まちづくりに向けて(pp.8-24) 学芸出版社
- [3]室崎益輝 2020 新型コロナに向き合う減災と復興の取り組み(特集新型コロナ時代への適応と地域).ガバナンス (231) pp.17-19

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 李フシン (LEE FUHSING)	4. 巻 22
2. 論文標題 10周年記念事業報告「被災地 未災地」の交流勉強会-茨城県大洗町と高知県黒潮町-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本災害復興学会誌 復興	6. 最初と最後の頁 25-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 LEEFUHSING・矢守克也	4. 巻 18
2. 論文標題 津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の活用法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 災害情報	6. 最初と最後の頁 187-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤誠司・宮本匠・石原凌河・木戸崇之・LEEFUHSING・宮前良平・大門大朗・立部知保里	4. 巻 8(5)
2. 論文標題 災害復興をめぐることばの諸相：復興ワードマップ研究会による基礎的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本災害復興学会誌 復興第23号	6. 最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 LEEFUHSING	4. 巻 8(4)
2. 論文標題 「被災地 未災地」の交流勉強会-茨城県大洗町と高知県黒潮町-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本災害復興学会誌 復興第22号	6. 最初と最後の頁 25-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lee Fuhsing, 宮本匠, 矢守克也	4. 巻 58
2. 論文標題 当事者研究からみる住民主体の震災復興 - 防災ゲーム「クロスロード：大洗編」の実践を通じて -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 実験社会心理学研究	6. 最初と最後の頁 81-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2130/jjesp.1608	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢守克也・李フシン (LEE FUHSING)	4. 巻 57(2)
2. 論文標題 「Xがない, YがXです」 疎外論から見た地域活性化戦略	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実験社会心理学研究	6. 最初と最後の頁 117-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2130/jjesp.1712	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 李フシン (LEE FUHSING)・矢守克也	4. 巻 1
2. 論文標題 「復興支援と言わない復興支援 茨城県大洗町の「ガルパン」を事例に」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本災害復興学会2017年度神戸大会予稿集	6. 最初と最後の頁 43 - 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 LEEFUHSING
2. 発表標題 新型コロナウイルス禍における台湾の市民社会
3. 学会等名 日本質的心理学会第17回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fuhsing LEE, 竹之内健介, 巫仲明, 許瓊文, 矢守克也
2. 発表標題 社会文化の視点からみる地域土砂災害の防災制度 日台比較を通じて
3. 学会等名 令和2年度 京都大学防災研究所 研究発表講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 LEEFUHSING, 矢守克也
2. 発表標題 コロナ禍時代における被災地の復興 茨城県大洗町を事例に
3. 学会等名 日本地区防災計画学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 LEEFUHSING, 矢守克也
2. 発表標題 コロナ禍における台湾の地域防災・防疫取り組み
3. 学会等名 日本自然災害学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fuhsing Lee, Katuya Yamori
2. 発表標題 Gaming Approach to Disaster Risk Communication: Development and Application of the “Crossroad Game”
3. 学会等名 International Conference for the Decade Memory of the Wenchuan Earthquake with the 4th International Conference on Continental Earthquakes (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李フシン・矢守克也
2. 発表標題 被災地と未災地のインターローカリティ
3. 学会等名 日本グループ・ダイナミックス学会大会第65回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李フシン・矢守克也
2. 発表標題 台湾社会から東日本大震災への寄付金の意味とは何か～「世直し」と「立て直し」の視点を通じて
3. 学会等名 第37回日本自然災害学会年次学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李フシン・矢守克也
2. 発表標題 「被災地 未災地」の交流の意味～茨城県大洗町と高知県黒潮町～
3. 学会等名 日本災害復興学会2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李フシン・矢守克也
2. 発表標題 被災地住民と外部支援者との関係性について～茨城県大洗町の聖地巡礼効果を事例に～
3. 学会等名 日本災害情報学会第20回学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 LEE FUHSING
2. 発表標題 How to Facing Disasters? The Meanings of Game-based Disaster Education Tools
3. 学会等名 IAG- IASPEI 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 LEE FUHSING
2. 発表標題 Yes or No or More? The Meanings of Games for Disaster Education The Meanings of Game-based Disaster Education Tools
3. 学会等名 ISTP2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李フシン (LEE FUHSING) ・ 矢守克也
2. 発表標題 復興支援と言わない復興支援 茨城県大洗町の「ガルパン」を事例に
3. 学会等名 日本災害復興学会2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李フシン (LEE FUHSING) ・ 矢守克也
2. 発表標題 地域防災における課題の克服に向けて～台湾における「土石流防災専員」と行政の関係性を事例に～
3. 学会等名 第36回日本自然災害学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李フシン (LEE FUHSING)・矢守克也
2. 発表標題 Xがない。YがXです。の意味とは何か～高知県黒潮町を事例に～
3. 学会等名 日本質的心理学会第14回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李フシン (LEE FUHSING)
2. 発表標題 YESとNOを越えて～防災ゲーム「クロスロード：大洗編」の実践から～
3. 学会等名 日本質的心理学会第14回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李フシン (LEE FUHSING)
2. 発表標題 ゲームを通じた対話の生成と横断 防災ゲーム「クロスロード」の実践から
3. 学会等名 第40回社会言語科学会研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李フシン (LEE FUHSING)
2. 発表標題 「世直し」と「立て直し」の視点からみる台湾の寄付文化
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 岡本, 健, 田島, 悠来 編者 LEE FUHSINGなど	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 pp.196-206
3. 書名 メディア・コンテンツ・スタディーズ : 分析・考察・創造のための方法論:第17章 被災地住民とともにゲームをつくる	
1. 著者名 斉藤 容子, リズ・マリ, LEE FUHSING, 石原 凌河	4. 発行年 2021年
2. 出版社 関西学院大学出版会	5. 総ページ数 pp.73-94
3. 書名 COVID-19 各国の政策と市民ボランティア 新刊 イタリア・アメリカ・台湾・ニュージーランド:台湾編 台湾の市民社会の力	
1. 著者名 Fuhsing Lee, Katsuya Yamori	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 pp.51-64
3. 書名 Disaster Risk Communication : A Challenge from a Social Psychological Perspective (Integrated Disaster Risk Management:Gaming Approach to Disaster Risk Communication: Development and Application of the "Crossroad Game"	
1. 著者名 李フシン (LEE FUHSING) 共著 伊藤哲司・呉宣児・沖潮満里子 編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 pp.106-115
3. 書名 アジアの質的心理学 日韓中台越クロストーク:第10章「世直し」と「立て直し」の視点からみる台湾の寄付文化	

1. 著者名 李フ昕 (LEE FUHSING) 共著 王价巨 編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 臺灣五南圖書出版	5. 総ページ数 pp.77-96
3. 書名 災害管理：13堂專業の必修課程:第4章 防災教育之反思 没有標準答案的防災遊戲「十字路口」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------